

主査・委員長からのメッセージ

機関紙「New Glass」：継続が歴史を刻む

豊橋技術科学大学

松田 厚範

ニューガラスフォーラム（NGF）の機関紙「New Glass」は、フォーラムが設立された翌年の1986年に創刊され、2012年までは1年間に4冊、2013年以降は1年間に3冊発行され、これまで30年にわたって発行の総数は115号に及んでおります。現在その毎号の発行部数は約450部、購読者数は約400人以上に達しております。本誌は、当時「ファインセラミックス」について「ニューガラス」が新素材として関係者から注目されるようになり、ニューガラス製品やフォーラムの活動状況を広く一般の方々にもPRするために発刊されました。

わたくしは、1987年に修士を修了し、ガラスメーカーに就職し、さらに大学で教員として勤めましたので、自身の研究開発に加えて教育や人材育成の面でも、NGFと深く関わりながら共に歩んできたように感じております。私の卒業研究のテーマは「ゾルゲルによる超イオン伝導ガラスの作製」、修士は「ゾルゲル法による機能性コーティング薄膜の作製」でしたので、液相からニューガラスを低温合成する方法として注目をされ始めた「ゾルゲル法」を研究テーマに選んだことが、自分の進路を決定し、現在のNFGとの強い繋がりを頂く契機になったと思っております。

現在「New Glass」誌は、特集、研究最先端、いまさら聞けないガラス講座、研究機関紹介、ニューガラス関連学会、新製品・新紹介、私の研究ヒストリーなど、注目を集める技術分野から、ガラスの基礎、さらに最新の応用まで幅広く充実した内容で構成されております。当初のニューガラスの広報といった位置づけだけでなく、ガラス関連分野の技術者・研究者にとっても参考書あるいは教科書としても有用な記事がこれまでに蓄積されております。NGFのウェブサイトへのアクセス数は、39万件におよんでいるそうですが、最近では月平均7000件近い機関紙の記事へのアクセスがあるそうです。各分野で活躍されている第一線の研究者によってこれまで執筆された記事を参照し、活用されている方が、わたくしも含めて多数おられる証しだと思います。また、2012年に京都大学名誉教授作花済夫先生から始まった「私の研究ヒストリー」は、京都大学・滋賀県立大学名誉教授曾我

直弘先生，東京工業大学名誉教授山根正之先生と続き，現在は大阪府立大学名誉教授南努先生が執筆されておりますが，懐かしく記事を読んでおられる関係の皆様も多いのではないのでしょうか。

「New Glass」誌の編集は，産学官からの委員と事務局によって行われ，現在わたくしは，その委員長を担当しております。継続は力なりといいますが，激変する社会環境や産業構造，また高いレベルで要求される技術革新と国際化の状況にあっても，振り返って当該分野の歴史となるような機関紙をお届けしていきたいと委員会一同思っております。本誌がガラス関係の皆さまから愛されて信頼され，一般の方々からも親しまれるように熱意をもって本誌を企画し，編集して参ります。今後ともご支援，ご協力くださいますようお願い申し上げます。